

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
邨次 智恵美			
木2、木3			
添付ファイル			

科目の概要	保育の現場では子ども適切に養育する力量が要求されるが、この授業では、保育士として子どもの養育の専門職として必要とされる健康管理や安全管理 について演習・実技を交えて講義する。子どもの保健Ⅰで学んだ健康診断の意義、子どもに多い感染症の知識を復習しながら、疾病予防、清潔の基本である手洗い、三角巾・包帯法などの救急の基本的処置の概念と技術を解説する。		
授業の内容	第1回	オリエンテーション 保育に必要な保健演習について解説 保育における健康観察のポイントを予習しておく（テキストP6図1-2）	
	第2回	保育者自身の健康管理についてワークライフバランスを解説 子どもに多い感染症について調べておく	
	第3回	乳幼児の健康診断と健康管理について実際の測定の注意点を解説し、脈拍測定の実技実習をする 乳幼児の身体計測の意義とパーセントイル値について復習しておく	
	第4回	乳幼児の精神、運動機能の発達について発育の原則を復習しながら解説 原始反射についてその定義と種類を復習しておく	
	第5回	乳幼児の身体の清潔の重要性を解説し、手洗いの実技実習をする（実技試験①） 正しい手洗いの手順（テキストP13）を覚えておく	
	第6回	乳幼児の身体の清潔の重要性を解説し、ベビー人形を使い沐浴の実技実習をする 乳児の沐浴の手順を（テキストP106）を予習しておくこと	
	第7回	乳幼児の歯の清潔について解説 確認テスト① むし歯と歯磨きの関係を理解しておく	
	第8回	救急処置（1）発熱、腹痛、咳、嘔吐などの症状から適切な処置について解説 「保育園で保育者は薬をどう扱うべきか」、自分の考えをまとめておく	
	第9回	救急処置（2）すり傷、やけど、骨折など応急手当、処置について解説 基本的な手当て（テキストP106）を予習しておく	
	第10回	救急処置（3）保育者としての救急処置の考え方を理解し、三角巾、包帯の巻き方を解説 止血、心肺蘇生法について調べておく	
	第11回	グループで三角巾を使う実技実習をする 三角巾での固定の仕方（テキストP137）を予習しておく	
	第12回	包帯法の実技実習をする（実技試験②） 学生が2人1組になりお互いに前腕に包帯を巻いてみる	
	第13回	保育における環境の安全と衛生管理について解説 確認テスト② 保育室、遊び場などの保育環境の中で危険と思われる場所、場面をあげてみる	
	第14回	保護者との連携について解説し、実際にほけんだよりを作成する ほけんだよりのテーマを決め、レイアウト、カットなどを考えておく	
	第15回	まとめ 子どもを健康的に養育する保育者の責任について解説 社会問題化している児童虐待の事例を集めておく	
学習到達目標	子どもの（乳幼児期）の成長、発達を身体測定とその評価から理解し、健全な養育の重要性を説明できる 日々の子どもの適切な健康観察が実施できるように要点を習得する ベビー人形を使い乳児の抱き方、沐浴などの実技実習を通して乳児の接し方など習得する 感染症予防の基本の手洗い、三角巾・包帯の救急処置、応急手当など 実技実習を通して習得する 保育現場での 保育者自身の健康管理の重要性を説明できる		
授業の方法	講義形式（パワーポイント、板書使用）、ワークシートによる演習、 グループ実技実習（ベビー人形を使い沐浴、三角巾での処置方法）		
成績評価の方法	実技試験（2回）	40%	
	確認テスト（2回）	40%	
	提出物	20%	
教科書・テキスト	高内正子 編著 「子どもの保健演習ガイド」 建帛社		
参考書	高内正子 編著 「心とからだを育む 子ども保健Ⅰ」 保育出版社		
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	テキストの各章末のワークシートを活用して重要事項をまとめておく		
履修上の留意事項	保育士資格取得に必要な科目です 実技実習の時はふさわしい服装で受講して下さい		

オフィスアワー	質問などは授業時間の後に教室で受けます
担当教員への連絡方法	教務課に申し出て下さい
その他	特になし